Save the Children

ダイジェスト版



2021年8月31日

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン　国内事業部

子ども給付金「新入学サポート・高校生活サポート」2021　アンケート調査概要

調査目的: ・子どもや保護者が抱える負担や制約を明らかにし、特に**就学に必要な費用について把握**すること。
・子どもの貧困対策における**就学費用に対する支援の充実**に向け、本調査結果を国、地方自治体における政策提言につなげること。

調査対象	・新入学サポート2021受給世帯（新小学1年生、新中学1年生、新高校1年生合計422世帯）の保護者（422人）および中高生（370人） ・高校生活サポート2021の受給世帯（高校2年生、3年生、4年生、2021年3月に高校を卒業した人合計374世帯）の保護者（374人）および高校生、卒業生（396人） ※子ども給付金についてはこちらを参照　https://www.savechildren.or.jp/scjcms/sc_activity.php?d=3602
調査地域	岩手県山田町、宮古市、宮城県石巻市
調査方法	受給世帯に対し、オンライン・アンケートを案内し任意回答、またはアンケートを郵送し、自記式にて任意回答の上、郵送にてセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンへ返送。
回収期間	2021年4月23日～2021年6月7日
有効回答数	466人/796人　回答率59%（保護者） 261人/766人　回答率 34%（中高生・卒業生）
調査の主体	公益社団法人　セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
過去の同様の調査	※本調査は2016年、2017年、2018年に続き4度目の実施。 ・2016年の調査結果は　https://bit.ly/2T9EiiQ　　・2017年の調査結果は　https://bit.ly/3APMfdP ・2018年の調査結果は　https://bit.ly/3ySkOOZ

※本調査の設問ならびに結果に関して、沖縄大学　山野良一教授、千葉工業大学　福嶋尚子准教授より助言をいただいた。

調査結果のハイライト

1. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関して、収入が減ったと回答した保護者は50.3%であった。

2. 卒業や就学にかかる費用について、特に負担を感じる費用として、新入学の小1、中1、高1の保護者の78.2%が「制服・体操着代」と回答した。また、教科書やカバン、靴など日常的に使用するもの以外にも、卒業時にかかる卒業アルバム代（平均1万円～2万円）が負担と回答した保護者が20.4%だった。

3. 高校生および2021年3月に高校を卒業した（以下卒業生）保護者の32.2%が、子どもの高校就学について「経済的な理由により高校就学を続けられない可能性がある」と回答し、そのうちの27%が授業料が最も大きな負担になっていると回答した。

4. 高校卒業後の進路に関して、保護者の33.9%が大学またはそれ以上の教育を「経済的に受けさせられない」と回答し、24.1%の高校生・卒業生が「進学したいが、経済的に不安がある」と回答した。

5. 就学援助制度を利用していた小1、中1の保護者のうち、56.5%が就学援助制度により学校にかかる費用を「あまりまかなえていない」「まかなえていない」と回答した。

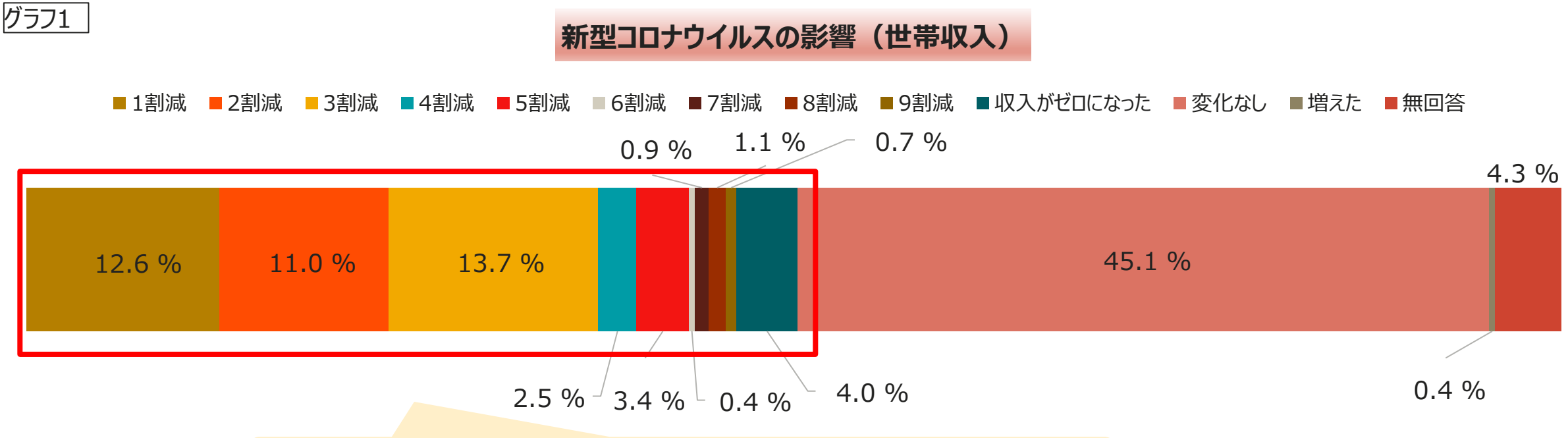
6. 高校生および卒業生の保護者の35.3%が高校生等奨学給付金を「利用していない」「わからない」と回答し、そのうち40.9%が「高校生等奨学給付金を知らなかった」と回答した。

7. 高校卒業後の進学にかかる費用に関して、給付型奨学金が拡充されたことについて、高校生および卒業生の保護者の55.9%、高校生および卒業生の60.5%が「知らなかった」と回答した。

1.新型コロナウイルス感染拡大の影響について（保護者全員への質問）

Q. 新型コロナウイルス感染症拡大によってあなたの世帯の収入はコロナ感染拡大以前と比較しどの程度減少しましたか。

グラフ1



収入減(1割減～収入ゼロ）の影響があったのは224人 **（50.3%）**

n=446

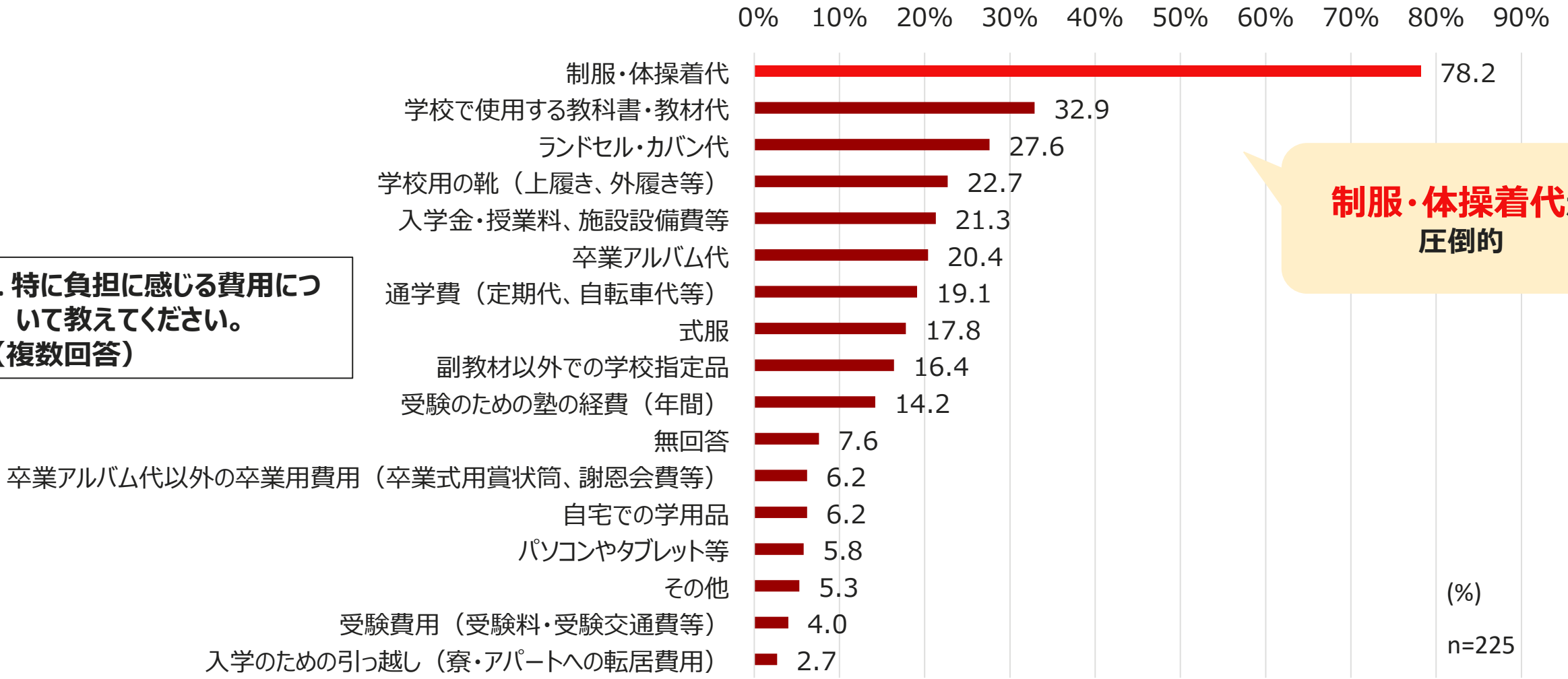
■保護者の声

- かけ持ちのバイトが 出来なくなった。(母親、中1、高1、高3)
- 自営ですが、色々な行事が中止になり売上が減少してとても厳しい状況になっています。（母親、高3)
- 飲食店のためかなり影響がある。（母親、小1）
- 売上が半分以下に、なっております。（母親、高1）
- ・会社自体の利益が減少したため、ボーナスに影響が出る。（母親、高3)
- ・生活保護の世帯になりました。（母親、高3)

2.卒業や就学準備にかかる費用について（小1・中1・高1保護者への質問）

グラフ2

特に負担に感じる費目



Q. 特に負担に感じる費用について教えてください。（複数回答）

制服・体操着代が圧倒的

3.卒業や就学準備にかかる費用について（小1・中1・高1保護者への質問）

Q. 卒業・就学準備に必要な費用について、養育者でご負担された金額はどれくらいですか。

制服・体操着代についての学年別平均値

学年	平均
小1 (n=26)	15,192円
中1 (n=76)	77,161円
高1 (n=90)	87,396円

ランドセル・カバン代についての学年別平均値

学年	平均値
小1 (n=27)	58,555円
中1 (n=62)	8,986円
高1 (n=71)	13,011円

学校で使用する教科書・教材代についての学年別平均値

学年	平均値
小1 (n=15)	11,348円
中1 (n=31)	16,377円
高1 (n=77)	24,944円

卒業アルバム代についての学年別平均値

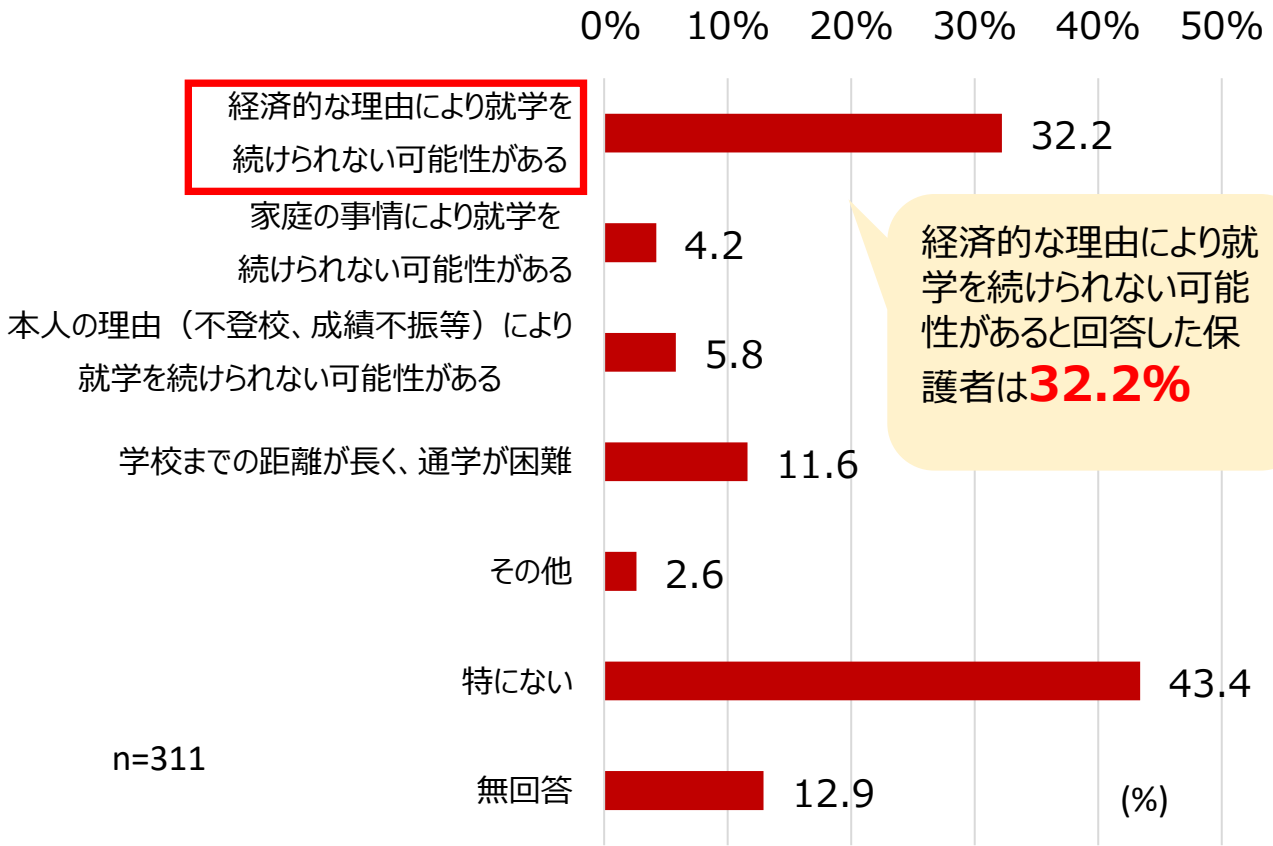
学年	平均値
小1（保育園・幼稚園卒園アルバム） (n=18)	11,394円
中1（小学校卒業アルバム） (n=52)	18,923円
高1（中学校卒業アルバム） (n=58)	15,130円

４.高校生の生活について（高校生・卒業生の保護者への質問）

Q. お子さんの高校就学について、心配なことはありますか。お子さんがすでに卒業されている場合は、高校就学時のときについてお答えください。（複数回答）

グラフ3

高校就学で心配なこと



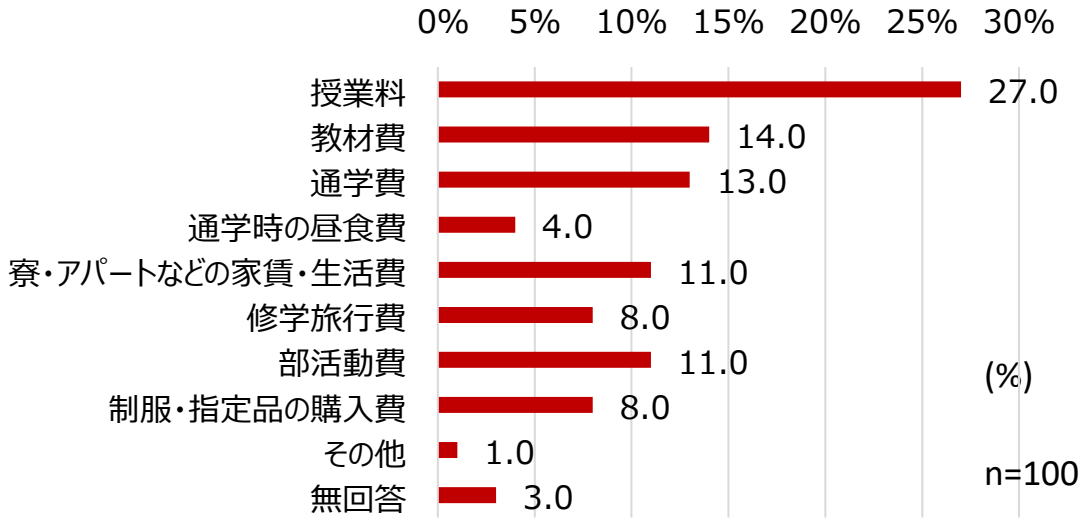
経済的な理由により就学を続けられない可能性があると回答した保護者は**32.2%**

※本報告書の中高生や保護者の声は、原文から一部を抜粋し、文意が変わらない範囲で編集しています。赤いハイライトはセーブ・ザ・チルドレンによるものです。

Q. （経済的理由で就学継続困難な保護者）高校の就学継続に一番大きな負担となっている費用について教えてください。

グラフ4

就学を継続できない経済的な理由



■保護者の声

・部活動は、経済的理由で諦めた。親として申し訳ない気持ちだった。コロナの影響で、修学旅行がなくなり、子供は残念がったが、旅行費を考えると、ちょっとホッとしました。（高3の母親）

・義務教育を高校までにして、子ども手当を出して欲しい。高校生になると子供服ではなく服も大人と同じで家計に負担がかかります。中学から高校とご飯もたくさん食べます。（高1の母親）

・せめて、教科書代だけでも無料にして欲しい。（高3の母親）

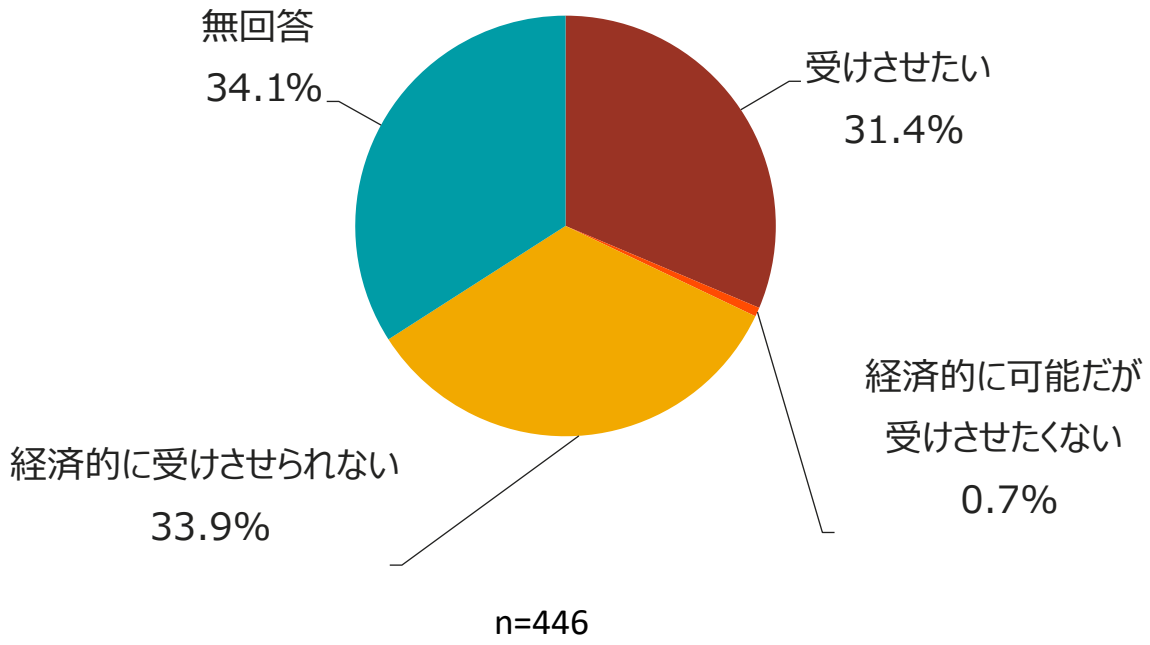
・交通費がかかります。交通手段がほとんどなく家から学校が遠いのですが、交通費をいくらでも安くする為、片道２～３時間かけて通学しています。（電車など乗りついで）（高3の母親）

5. 高校卒業後の進路について

Q.（保護者全員への質問）お子さんに、どの段階までの教育を受けさせたいと考えていますか。

グラフ5

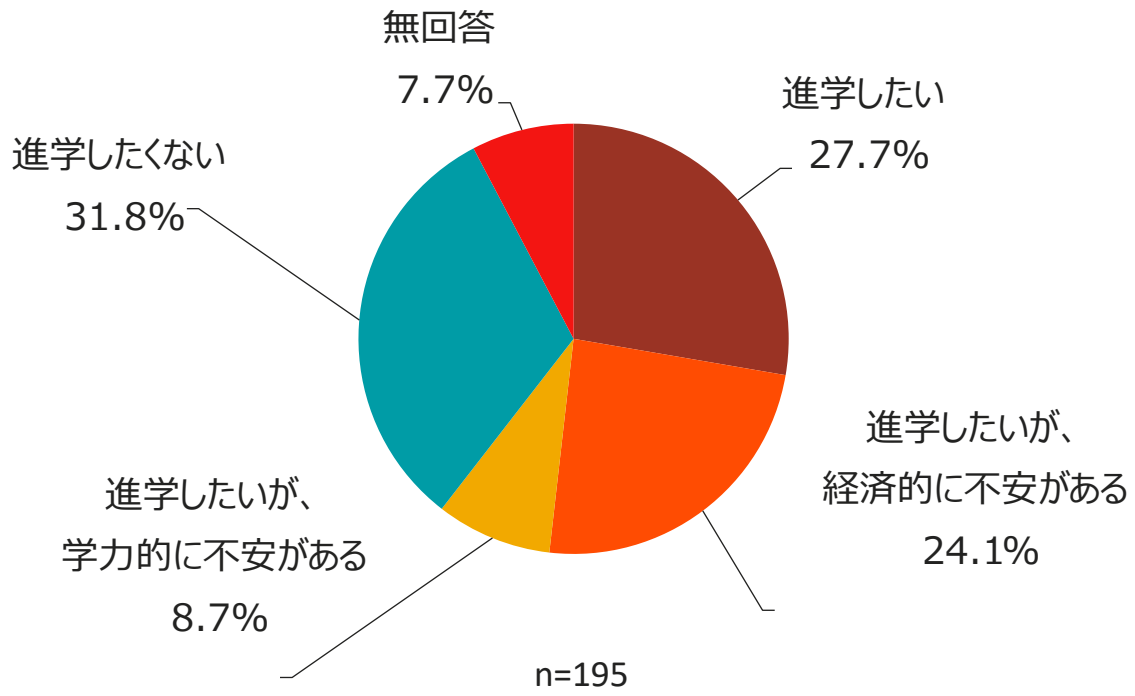
大学以上の教育



Q.（高校生・卒業生への質問）あなたは、高校卒業後、進学したいですか。*卒業生については在学当時のことについて回答してもらった。

高校卒業後、進学の意思

グラフ6



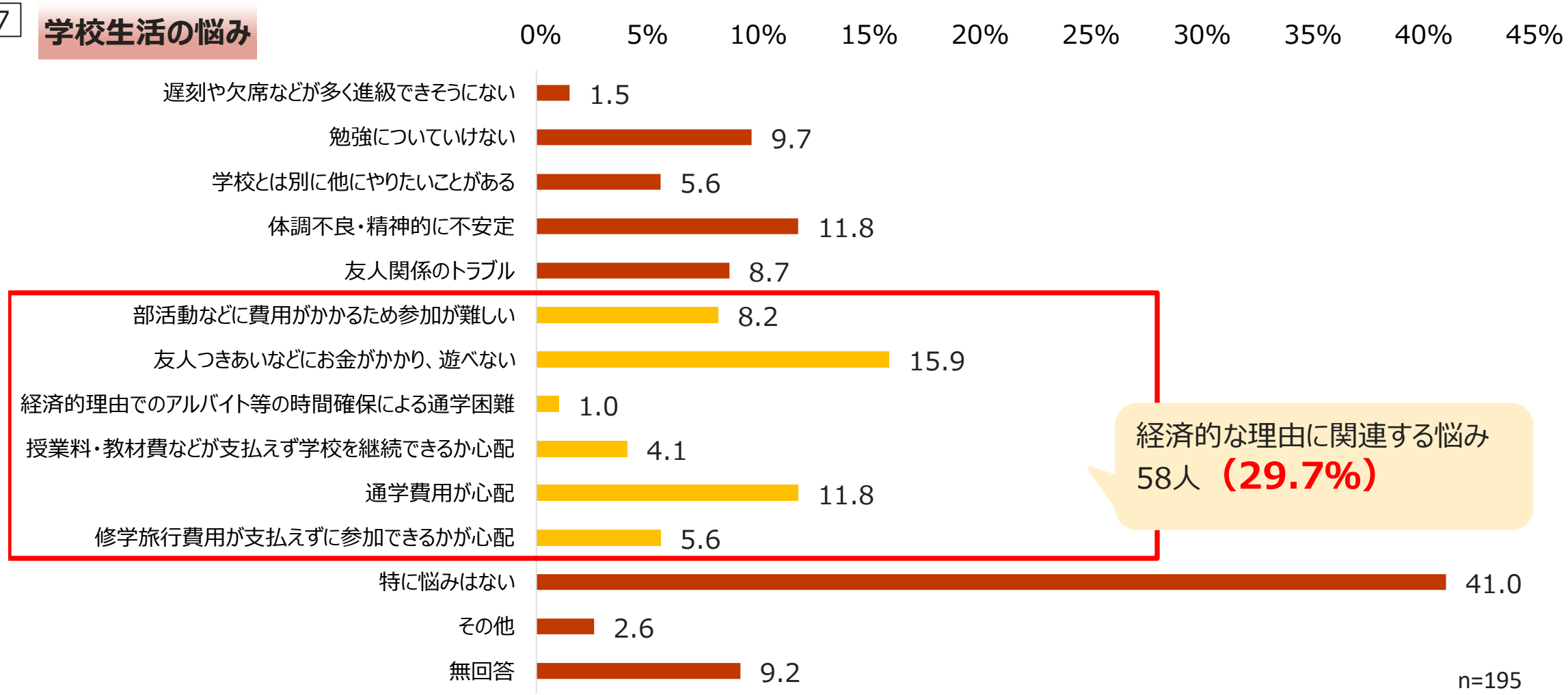
6.高校生の生活について（高校生・卒業生への質問）

*卒業生については在学当時のことについて回答してもらった。

Q.　（高校生・卒業生への質問）あなたの学校生活の悩みを教えてください。卒業生の方は、通っていた時の学校生活の悩みについて教えてください。（複数回答）

グラフ7

学校生活の悩み

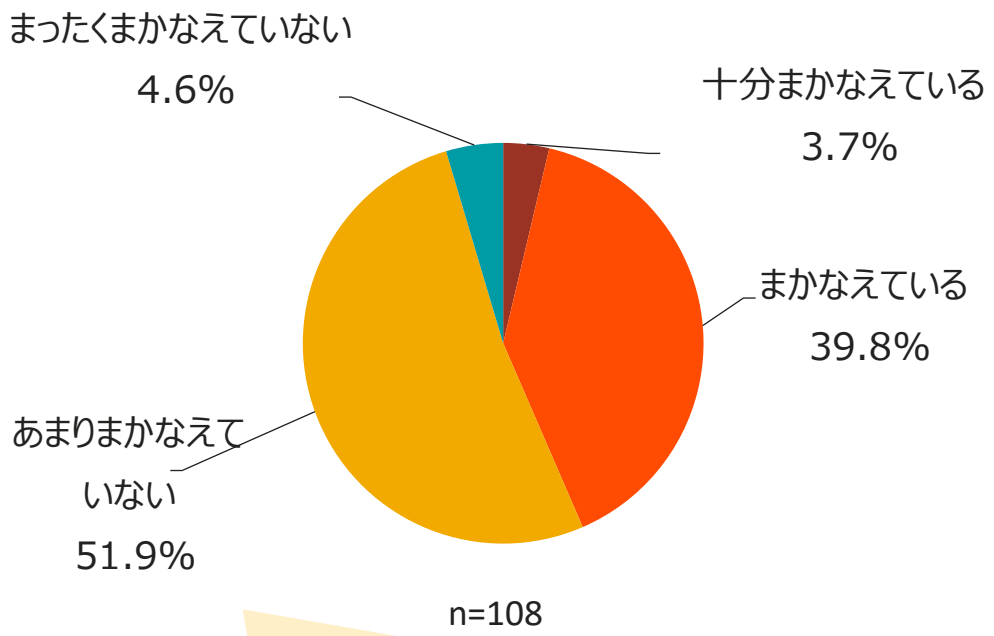


経済的な理由に関連する悩み
58人 **（29.7%）**

7. 就学援助制度について（小1・中1保護者への質問）

Q.就学援助制度を利用していると回答した方は、学校にかかる経費をまかなえていますか。

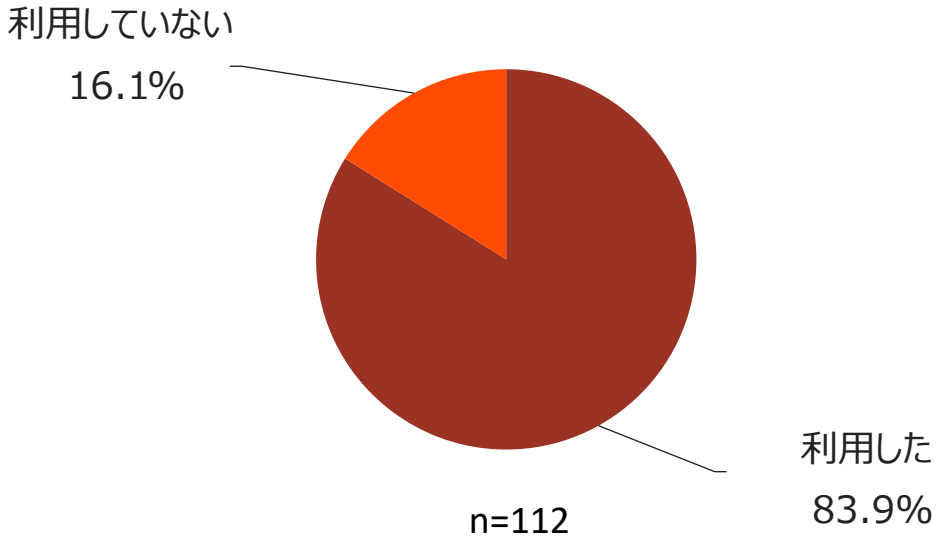
グラフ8　**就学援助制度で経費をまかなえているか**



就学援助制度を「利用している」と回答した108人のうち、
61人（**56.5%**）が就学援助制度により学校生活にかかる経費を「あまりまかなえていない」「まったくまかなえていない」と回答

Q.今年の新入学にあたって、入学前支給を利用しましたか。

入学前支給を利用したか　グラフ9



Q.入学前支給を利用しなかった理由について教えてください。

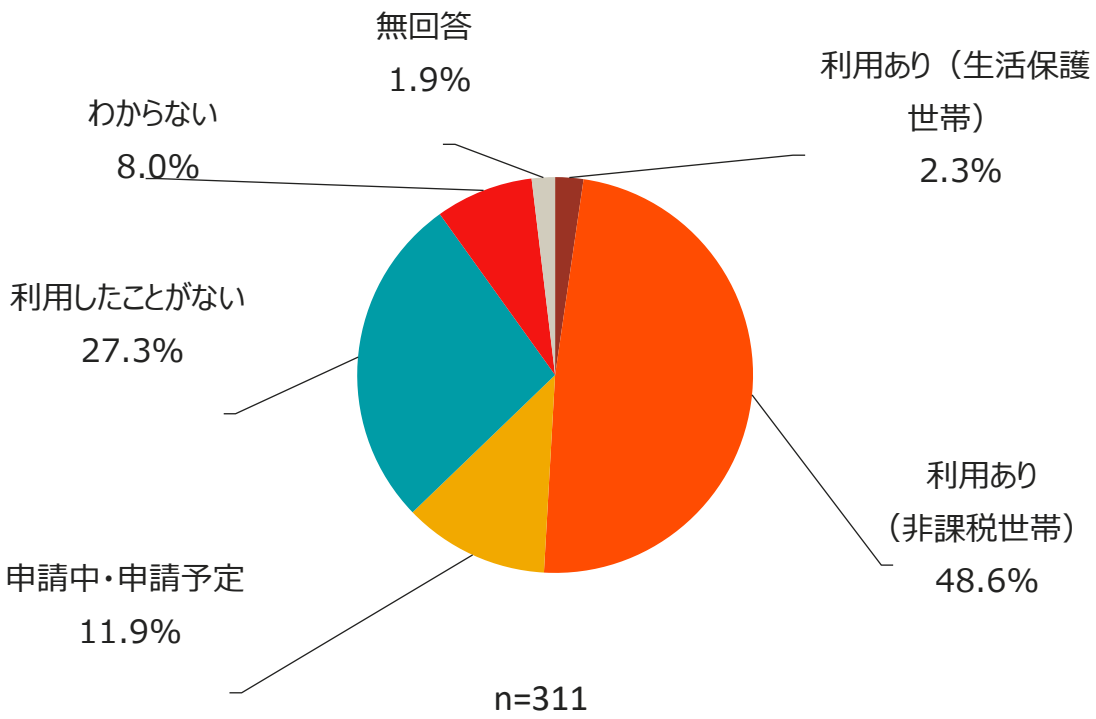
- 申請が間に合わなかった（小1の母親）
- 申請期間内に申請するのを忘れた（中1の母親）
- 入学前に申請できるのを知らなかったため（小1の母親）
- 分からなかった。（中1・高3の母親）

8.高校生等奨学給付金について（高校生・卒業生の保護者への質問）

Q. あなたの世帯は、高校生等奨学給付金を利用したことがありますか。

グラフ10

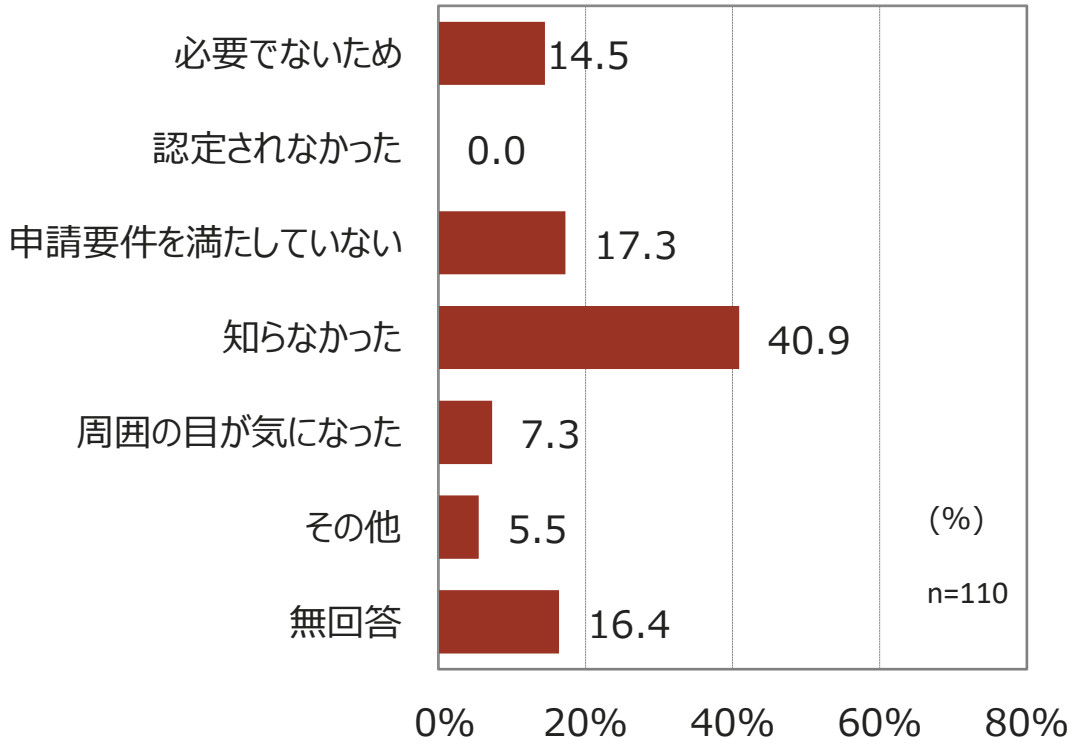
高校生等奨学給付金の利用状況



Q. 高校生等奨学給付金を利用していない理由を教えてください。（複数回答）

グラフ11

高校生等奨学給付金を利用していない理由

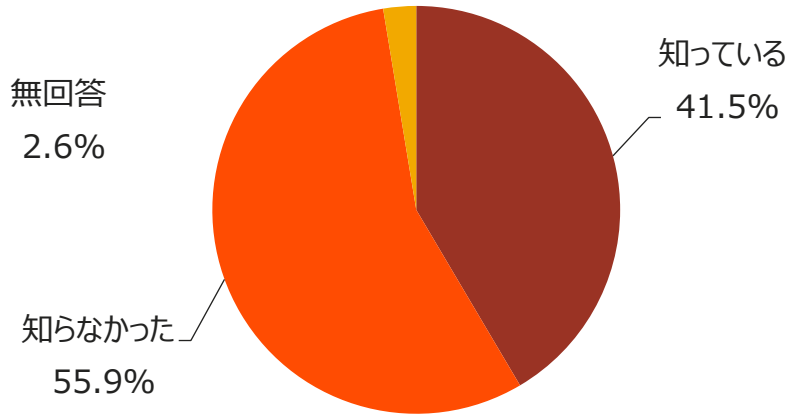


9.高校卒業後の進学にかかる修学支援新制度について（高校生・卒業生の保護者、及び高校生・卒業生への質問）

Q.令和2年4月1日より高等教育の修学支援新制度がはじまり、対象となる世帯（住民税非課税世帯またはそれに準ずる世帯）**であれば、大学等の入学金・授業料が免除・減額**（例：国公立大学の入学金・授業料が実質無料、国公立短大、専門学校、私立大学、私立短大、私立専門学校についても大幅な減額）**となり、また生活費に関しても給付型奨学金が拡充されたことを知っていますか。**

グラフ12 **給付型奨学金が拡充したことを知っているか**

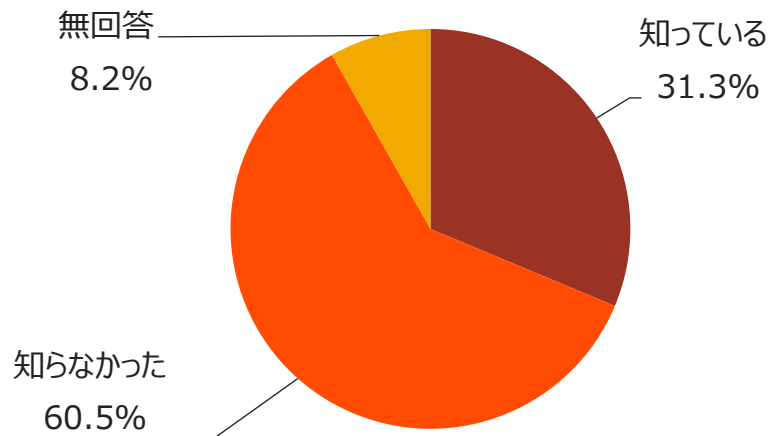
＜保護者＞



n=311

グラフ13 **給付型奨学金が拡充されたことを知っているか**

＜高校生・卒業生＞



n=195

調査から明らかになったこと

●本調査では新型コロナウイルス感染症拡大によって、回答者の半数の世帯で収入減の影響があった。一方、本調査の対象世帯は、新型コロナウイルスの影響に関わらず経済的困難な状況にある。そうした世帯にとって、本調査で明らかとなった高額の就学費用が大きな負担であることは想像に難くない。子どもたちの学ぶ権利が、世帯の経済状況に左右されることなく保障されるよう、就学援助制度や高校生等奨学給付金など既存制度の改善、強化が一層求められる。

●セーブ・ザ・チルドレンは、これまでも経済的に困難な世帯の就学に関する私費負担軽減を求めてきたが、本調査では就学にかかる具体的な費用を明らかとした。特に制服・体操着代については中学１年と高校１年で平均がそれぞれ77,161円、87,396円と高額であり、就学費用の中でも「特に負担である」との回答が8割近くに上った。

制服・体操着、上履き等の学校指定品は、より安価なものを選ぶといった価格選択の余地がない。本来無償であるはずの義務教育でさえも高額な費用がかかることは、経済的に困難を抱える世帯のみならず、一般世帯にとっても大きな負担である。就学費用に関しては、小1・中1の保護者の約半数以上が就学援助制度により学校にかかる経費を「まかなえていない」と回答している。特に制服代や部活動費などの負担が増える中学入学時の援助額の増額が求められる。

●高校就学に関して、高校生は児童手当の対象外となり、公的支援も薄れることから、就学費用の経済的負担が世帯に重くのしかかっている。こうした経済的な理由により就学を続けられない世帯が3割を超える。高校生が経済的な不安なく学校生活を送り、自らの望む進路を選択できるよう、高校生への経済的支援の拡充、高校生等奨学給付金の制度改善、進学のための修学支援新制度の周知の徹底が必要であろう。

提言

①　就学にかかわる私費負担額軽減のための見直し

保護者の就学費用にかかる負担は大きく、特に価格選択の余地のない制服、体操着、卒業アルバム等の学校に関わる費用について、1.指定品以外の選択を可能とする、2.教材費集金額が適正かを見直す、3.公費で購入し共用化できる教材の検討・導入を行う、といった私費負担を減らす実効的な対応がとられるべきである。

②　就学援助のプッシュ型支援の導入による徹底した周知、申請方法の改善

就学援助制度や入学前支給については、既存の周知方法に加え、プッシュ型支援を導入するなど周知のさらなる徹底を講じるべきである。また、 要保護、準要保護世帯等、自治体が家計の状況を把握している世帯については申請不要とする、全員申請を導入するなど、必要とするすべての世帯が漏れなく制度を利用できるよう、申請方法の改善が必要である。

③　就学援助　支給金額の増額

中学校入学時の制服・体操着代や教材費、部活動費等の負担が特に高額であり、現在の就学援助費との乖離がある。その他の費用についても、援助額だけでは十分にまかなえていない現状がある。実態に即した支給金額の見直しを行い、援助額の増額をはかるべきである。

④　高校生への経済的支援の拡充―新入学費用給付、児童手当対象年齢の延長

高校生は児童手当がなくなり、公的支援も薄くなる一方、教育費を中心に家計の負担が増大する。高校生への経済的支援拡充のため、高校入学時の新入学費用給付の創設や、恒常的な支援拡充策として児童手当の対象年齢の延長などの措置を講じるべきである。

⑤　高校生等奨学給付金の追加的予算措置、運用改善

以下4点について、高校生等奨学給付金の追加的予算措置や弾力的な運用・改善を促す通知を自治体に発出するなど、日本政府および自治体の双方に求める。

1.費目・金額を増やす　2.家庭の立て替えをなくす　3.制度のわかりやすい再周知　4.家計急変へのより柔軟な対応

特に2については、給付金支給時期が年度途中のため、いったん家庭で授業料を支払う必要があり家計の負担となっていることから、自治体が授業料を立て替えて学校に支払うなどの措置や支援策を講じるべきである。

あわせて、就学援助制度と同様、プッシュ型支援の導入による周知の徹底や、要保護、準要保護世帯等について申請不要にするなど改善をはかるべきである。

⑥　高等教育修学支援新制度の周知

高校卒業後の進学について、進学を希望する経済的に困難な世帯の子どもが、保護者の経済状況に左右されず現行制度を利用し進学できるよう、修学支援新制度の周知の徹底を求める。

講評　（千葉工業大学　福嶋尚子准教授）
就学にかかる費用について

本調査結果は、これまで全体像がさほど把握されてこなかった就学費用の内訳の平均値のみならず学校間格差についてもリアルに反映しているもので、非常に価値があります。

中でも制服・体操服などの負担が重いという保護者の声が圧倒的多数（78.２％）に上り、本調査では6~12万かかったとの回答が全体の6割を超え、最も多いのは8~10万円です（24.5%）。これにカバンや靴代を加えると、中学就学時に制服・指定品の類で一挙に10～12万円ほどが必要であり、その費用負担はあまりにも重いものです。

今回驚くべきは卒業アルバム代です。全ての学校種において１万円を超える費用を卒業アルバムにかけており、これは昨今、卒業アルバムの付加価値が増してきていることが背景にあると思います。

こうした費用は積み立てのほか、卒業や就学の直前に一括で支払いを求められることも多く、２割の方がキャッシングやカードローン、親族や友人からの借入という選択を強いられています。新入学準備に必要な費用の捻出先として就学援助制度を利用したと回答した方は５割にとどまっており、より適切なタイミングの公助が整備されてしかるべきと思います。

講評　（沖縄大学　山野良一教授）
全般を通して

本調査が実施された2021年4月から6月にかけては、コロナ禍が長期化・深刻化しており、収入や勤務時間の減少、休業・失業等、低所得世帯ほどより甚大な経済的影響を受けている実態が調査結果よりくっきり見えました。

こうした厳しい状況において、「部活動に必要な道具等」（42.2%）や「誕生日・クリスマプレゼント」（59.7%）を我慢した経験があった子どもが多く見られ、子どもの権利状況が悪化しているのではないかと危惧される数値でした。

もっとも鮮烈であったのは、就学や進学費用について悩みを抱えている保護者や子どもの存在です。制服・体操服代や授業料を負担に感じている保護者が多く見られ、また、子どもに短大や大学教育を「経済的に受けさせられない」と考える方も2―3割、高校生自身も「進学したいが、経済的に不安がある」と答える場合が約4分の1にも及んでいました。

一方で、昨年度から始まった高等教育の修学支援制度*（いわゆる大学無償化）を「知らなかった」保護者は5割を超え、子どもに至っては6割を超えており、制度をより身近なものにする工夫が早急に求められているのだと思われます。

*経済的困窮世帯等一定の条件を満たす世帯対象